

そば・うどん関連文献一覽

蕎麦に関する本を列挙するとなると、狭い紙面では片づかない。現在市販されているものでも、店頭で見つからない場合には、一応店の人にたずねて見るのがよい。書店に熱意があり、サービスのよい店ならば、「出版年鑑」(出版ニュース社刊)が備えてある筈だからそれに頼るのも一法である。

蕎麦の本が広く世の注目を集め、業者に限らず、一般読書人に及んで来たのは、昭和以来のことで、明治・大正には出版業者でも、これに関心を示さなかった。実に寥々たる有様である。

明治…28年、「蕎麦志」(京都・河道家私版、和装)説明は入念。

大正…6年、「蕎麦の栽培と其料理法」(東京・日本種苗株式会社編)。

昭和2年に「蕎麦考」(大阪・森谷白露洲編、和装半紙86頁、200部、珍聞閑文舎刊)が現われ、戦後改訂版が(京都思文閣から500部出た)、要するに古い蕎麦の書からのスクラップである。非売。

読書界に昭和の蕎麦の本として、新風を吹き込んだ第一声は、昭和5年、四六書院刊、村瀬忠太郎著「蕎麦通」である。四六判、215頁。70銭。これは頗るよく出来ている。「通」の名にそむかない。一読してよらしい。

話違って、業界人が興味を感じたのは、日月庵藪忠刊(昭和8年)「川柳蕎麦の花」で、和装菊半截判、20頁非売。その翌年、孔版で村井政善の蕎麦記事を入れた「**応用料理集成**」がある。非売。変り物では蕎麦業界の大物高岸拓川の「**蘇番経**」「**優曇経**」が発表された。昭和12年一茶庵片倉康雄氏が活版で刊行されたとのことだが原本は拓川自筆のもので、現在青写真として所有されているお方がある。複製するには、高度の製版技術を要する。

「**栄養蕎麦料理**」(A5、118頁)が「料理の友」付録として出たのは、昭和14年6月で、すでに日華事変がはじまっていた。大戦争となつてから出たものには、A5、73頁の「**蕎麦讀本**」がある。日本米穀株式会社刊。

蕎麦の本として、体裁は粗末だが、内容で勝負するという形で、私版されたのは、岡沢木一郎著「**そば物語**」(正・続、二篇で、B6、234頁、昭和28年、29年)である。(岡沢氏の人物については、昭和50年5月15日号「日本そば新聞」で紹介しておいた)。岡沢氏に続いて現代思潮社刊、小型本の「**蕎麦漫筆**」(多田鉄之助著)、読んで字の如く漫筆である。

蕎麦に関する100部限定、非売、特装「**そばの花**」(昭和30年、春夏秋冬倶楽部創立出版、B6、変形80頁、木炭紙セピア印刷。印画はり込み。装本青園荘内藤政勝)。このころから、蕎麦に関する本が出はじめた。今日までにざっと40種ほどに及ぶであろうと推定される。(詳細を報じるとなると、一冊のパンフレットになる)

現在市販されているので書店にあるものは、大体次のようである。版元はABC順とした。

- ◆自治日報社刊「**そば物語**」(植原) B6、310頁、500円。
- ◆錦正社刊「**蕎麦今昔集**」(新島) A5、582頁、3500円。
- ◆柴田書店刊「**そばの本**」(植原・薩摩) B6、306頁、1,500円。
- ◆東京美術刊「**蕎麦の唄**」(新島) B6、250頁、600円。
- ◆東京堂出版刊「**蕎麦辞典**」(植原) B6、280頁、美本。最近値上げして2000円。「**蕎麦談義**」(植原) A5、273頁、1,800円。

今日の状況では、以上五社が、蕎麦出版の家元といった形で、近く柴田書店からB6判の「**そば事典**」(植原)が刊行される。

なお、特殊の例として毎日新聞社刊、風土記シリーズの中の一巻として「**そば風土記**」(植原)が発売されている。(B6、206頁、850円)。特殊のものとして大阪美々卯刊「**そばの本**」(美本1,000部限)があるが、これはすでに10年前のこと。また「**蕎麦店経営の基礎知識**」(大宮・鈴の木刊)(非売)、ハガキ申込みで無料配付したものであるが、受取り状が来たのは実にすくない。

業界人の発表した私版物では「**蕎麦随筆**」「**うどんのぬき湯**」(並木藪)、「**故沢島健太郎遺稿集**」(蓮玉庵)などがあり、特殊のせいたく出版としては、次のようなものがある。

- ◆新島繁=昭和32年4月以来、同44年11月に至る42集の「**さらしなそば**」。
- ◆鈴木啓之=「**詩画集・そばのふるさと**」「**そばのうたごえ**」(12枚の美術木版、150部)。
- ◆山本重太郎=「**そばの浮世絵**」(オフセット美術印刷、500部)。
- ◆植原路郎・藤沢竜雄=「**蕎麦絵巻**」(オフセット美術印刷、天地30センチ、全長28メートルを五冊の折本とす。500部。永坂更科蔵版)(永坂更科にはPR誌年三回の「**蕎麦誌**」がある)。

蕎麦ニュース資料としては、日麺連の「**全国麺業新聞**」、都麺連の「**日本そば新聞**」がある。(地方紙省く)。(R)